

7月の見通し 利益確定の良い頃合

株式はいったん利益確定へ、債券に投資妙味なし

世界的に景気のパラダイムが鈍化していること、年後半にも流動性環境の悪化が予想されること、リスク資産のバリュエーションが割高な水準にあることから、株式の評価をオーバーウェイトからニュートラルに引き下げます。

一方、**債券は金利が歴史的な低水準にあることからバリュエーション面での投資妙味がない**と見ており、アンダーウェイト評価を継続します。

世界経済のパラダイムは鈍化、中央銀行は金融引き締めへ

6月は、株式市場がほぼ横ばいとなる一方で、債券市場および商品市況は下落しました。

市場は、**世界の経済成長に鈍化の兆し**が見られること、**主要国の中央銀行が金融政策の引き締め**を示唆したこと、の2点に懸念を抱いているようです。

米国や中国、日本の景気先行指数は直近のピークから下落に転じました。また、企業の業績予想は年前半に大幅な上方修正がなされたことから、さらなる上振れを期待するのは難しいでしょう。

米国の経済指標が市場予想を下回るなか、米連邦準備制度理事会(FRB)は量的金融緩和政策によって膨張したバランスシートを圧縮する意向を示した他、12月にも追加利上げを実施することを示唆しています。

また、欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁がタカ派的なコメントを発しました。このため、世界的な流動性縮小への備えは必要と考えられ、リスク資産には注意が必要です。

投資妙味がある資産、業種は？

バリュエーションの点から見ると、リスク資産は全般に割高な水準にあるとみています。

2017年第1四半期の企業の増益率は年率換算で+20%と急激な伸びを示していますが、経済成長が鈍化してきていることに加えて今後流動性環境の悪化が見込まれます。

こうしたなか、投資妙味がある資産、業種としては以下に注目です。

欧州新興国、アジア、電気通信サービス、エネルギーセクターなどは割安な水準にあり、投資妙味があります。

特に欧州は株式市場の中で最も投資妙味のある地域の一つです。

力強い景気動向やECBによる潤沢な流動性供給が下支え材料です。

欧州委員会(EC)が発表しているユーロ圏の景況指数は6月に著しい改善を示し、およそ10年ぶりの水準まで上昇しました。これは、実質GDP成長率が+2%の水準まで上昇することを示唆しています。

年初来の株価上昇を受けてバリュエーション面での投資妙味は薄れていますが、欧州の景気サイクルがこれから加速し始める段階にあることを考えると、米国株式との比較では割安な水準にあるといえるでしょう。

ユーロ圏および英国、日本の評価は引き続きオーバーウェイトとします。

債券市場では、欧州の投資適格社債およびハイイールド債券のバリュエーションが極めて割高な水準にあるといえます。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。